

進路指導室からの贈物

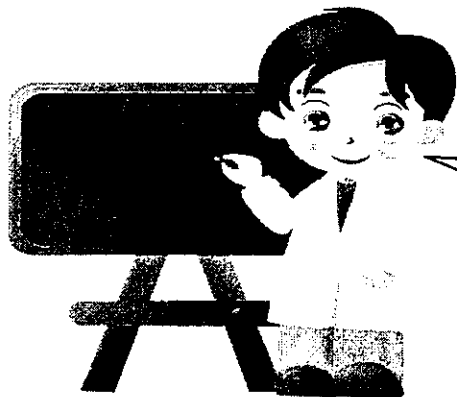
進研4月模試にむけて

今月25日・26日に高3初めての模試が実施されます。この模試は今までの模試といささか趣が違うのでそれについて少しお話します。今回の模試は今までのものよりも母集団(受験人数)がかなり減ります(高2 1月記述=44万人、2月早期対策=23万人、今回=15万人[昨年の受験人数] 参考までにセンター試験現役出願数=46万人[今年])。今回の模試の主眼は、基礎レベルの習得が個人の中でどの程度までできているかを試すもので、同学年の人たちの中での順位(偏差値)に重きを置いたものではありません。従って今回の模試に関してはこれまでとは少し違った観点で受験してもらいたいのです。

私は今年で高3生を4年続けて見ることになりませんが、最近ふとあることに気づきました。難易度の高い模試で結果を出すことも大事であることには間違いありませんが、標準的な(基礎レベルの)模試での結果をもっと大事にしなければならない、ということです。大学入試という普段とは違った状況や精神状態で自分の力を十分に発揮する能力は、自分に備わっている基礎の部分だ、ということです。そして、その部分をおろそかにしている人ほど実は最後の最後で涙をのんでいるケースが多いのです。結局、その大事な部分を抜きにして、見せかけだけで外見だけ立派に飾ったものは最後の最後で自分を裏切るのです。

ただ基礎と言うと勘違いをする人もいるかもしれません。基礎の定着と言うと、簡単な問題が解けること、と考えている人もいるのではないのでしょうか。ここで言う基礎、或いは基礎の定着とは物事の本質や仕組みを捉えて、いつでもそれらを活用できるようにすることです。大学の入試傾向は年によって変わることがあります。難易度もその年によって変化することもあります(事実、今年のセンター試験もそうでした)。従って大学の入試傾向に沿って対策を立てることも大切ですが、それ以上に大切なことは、それらが変わっても対処できる中核となる学力をつけることなのです。この中核となる学力が基礎力なのであり、その基礎力を幅広く応用できる学力こそが難関大学の入試に求められていることなのです。つまり大学入試で成功するには、その基礎力のベースを引き上げていくことが最も重要なのではないのでしょうか。このことはいかに時代が変わり、入試制度が変わったとしても普遍的な真実だと思います。

従って今回の模試は、偏差値だけではなくいつも以上に各教科・各分野の正解率(完成度)に目を向けて下さい。そして自分の弱点を早く発見してその克服に努めて下さい。また得意教科・分野であっても、まだまだ伸びる余地はあると思いますので、その点にも着目して下さい。



- 今回のテストのポイント
- ・難易：基礎から入試レベルへのつなぎ
 - ・範囲：1・2年生の総復習(理社も)
 - ・解答：記述答案を作成できるか

目標得点率(おおよその目安にしてください)

文系	5教科の目標得点率	理系	5教科の目標得点率
東京大学	83%	東京大学	80%
京都大学	70%	京都大学	71%
旧帝国大学	61%	旧帝国大学	63%
金沢大・名市大	50%	金沢大・名工大	53%
地元国公立大学	48%	地元国公立大学	49%
偏差値50	35%	偏差値50	36%

受験後は夏までの取り組みポイントを確認

今回の模試結果が帰ってきたら、判定で一喜一憂するのではなく、各教科・科目の結果をきちんと確認し、今後の学習計画を立てましょう。志望校に向けて、苦手教科・苦手分野をどうやって克服するのか(ひょっとしてこれまでできていると思っていたところに落とし穴があるかもしれません)、或いは得意教科をどうやってさらに伸ばすのか(ひょっとしてこれまで得意と思っていたのが単なる思い込みがあるかもしれません)、学習計画を立てて夏を迎えよう。

まずは、教科別の判定で、**夏までに克服すべき教科**がわかる！

国 数 英 歴公 理	1次			
	受験条件	判定科目	得点/配点	判定
	現古漢		70/100	B
	2	2	62/100	D
	WL	WL	69/100	C
	2	日 現社	45/100	E
	2	物基 化基	25/50	E

※4月記述
模試成績表の
一部分

次に
1問1問の設問別成績がわかるから、
最優先で克服すべき問題を復習しよう！